AP13討論集会・冒頭挨拶(メモ)

2012/12/6　基幹労連　中央執行委員長　神津　里季生

1. 確立してきた枠組みをさらに万全なものにしていこう
2. 自分たちの足元をしっかり照らそう
3. 社会的使命を自覚して取り組もう
4. 本当に大事なことは何か、訴えていこう

全国の各組織からお集まりの皆さん、大変ご苦労様です。状況に鑑みながら当初の予定を短縮しての開催とさせていただきましたが、公私にわたって多忙ななかご参集いただいたことに対し、心より御礼申し上げます。討論集会の冒頭にあたり、主催者を代表してご挨拶を申し上げます。

本討論集会は既に提示をさせていただいていますAP13の基本構想に対し、忌憚のないご意見をいただき、方針化の糧にさせていただくことにあります。是非各位の活発な討論参加をお願いしておきたいと思います。

個々の論点の詳しい内容については後ほどの説明に譲らせていただくとして、私の方からは、特にこの来る AP13 に取り組むにあたって、是非関係各位の頭においていただきたい事柄を簡潔に申し述べておきたいと思います。

1. まず第一に、「これまでに確立してきた枠組みをさらに万全なものにしていこう」ということです。

AP13は、一時金と格差改善を柱にした個別年度の取り組みです。

当然のことながら情報の横通しによる相乗効果の発揮が産別運動全体の課題となりますし、また格差改善については各業種別組合を中心とした部会ごとのまとまりによる取り組みが力となるところです。

基幹労連においては、「魅力ある労働条件づくり」と、「産業・企業の競争力強化」という、いわゆる好循環の考え方を中心軸とするもとにあって、これらの取り組みは一定程度定着をし、それぞれの取り組みの基盤になっていると考えます。そのことによって、我々の取り組みは、デフレの引き続く厳しい経済環境のなかにあっても一定の成果引き出しを可能にしているものと認識をするところです。

以前にも申し述べたように、もし、かつての春闘の枠組みだけでものごとを考えるならば、ひたすら我慢のAPになってしまうところですが、我々の運動は過去の取り組みを振り返ることではなく、その時々の状況を見極めつつ、目的を明確にし、日々新たな形を追求してきたのであり、この土台の上に立って、せいせいと、自信を持って取り組んでいくことが基本であります。

60歳以降の就労確保の取り組みについても、決着のタイミングがAP期間中となる組織も多々あろうかと思います。振り返ればAP10のメインテーマとして本件に関わる話し合いの場の設置をいっせいに求めてきて以降、我々がこの枠組みのもとで営々と努力を重ねてきたことの集大成であり、最後の刈り取りの時期を迎えているわけであります。是非、先行する総合組合の状況も参考にしながら、確実な成果獲得に向けて力をあわせていきましょう。

2. このように基本的な取り組みが定着をしてきていること自体は我々の強みですが、ともすると、一つのパターンでの取り組みに終始してしまいがちです。様々な観点で、これまでの形のみにとらわれることなく、一つひとつの活動を組み立てていかねばなりません。

そして何をおいてもまず、「自分たちの足元をしっかりと照らす」ことが必要です。残念ながら基幹労連のなかでも、雇用合理化問題を抱える組織や、企業再建を取りざたされる状況も散見されるに至っています。今一度、企業業績はもとより、経営課題、将来戦略、そのもとでの雇用のあり方等々、危険予知の観点を含めた対応に万全を期していくことが不可欠です。そのもとで、企業労使の枠を越えた課題、政府・行政に対する取り組み事項については、是非率直な声を本部に寄せていただきたいと思います。我々のAPの労使交渉においては、経営環境に関わる認識が単なる言い訳の要素になってはならないと思います。労使双方ともに言いっぱなしにするのではなく、お互いの問題意識をどのように展開させ、未来につないでいくのか、そしてそのことに産別としてどう関与していくのか、その力合わせこそが実りある交渉を実現していく最大のポイントです。

3. そしてさらに我々には、今ある姿に安住することなく、果敢に新たな課題に挑戦していくことが求められます。とりわけ、「労働組合としての社会的使命を自覚して取り組んでいく」ことが不可欠です。

まず組織内において、定昇制度の確立・整備を進める取り組みです。基幹労連は制度体系を持っている組合が約7～8割と、連合全体の調査での 50%台に比べればかなり進んでいることは事実ですが、それだけに、そのリード役としての自覚をさらに高めながら取り組んでいくことが必要です。総合組合や県本部・中央本部による経営申し入れもその点を意識しながら、産別全体で注力していくことが必要と考えます。

そして、働く者全ての雇用確保と待遇改善についてです。基本構想でも述べているとおり、組合員はもとより、同じ企業・グループに働く全ての労働者の将来的な「安心・安定」の確立は極めて重要なことです。いわゆる非正規労働者を含め、直接的な労使交渉の対象とはとなりにくい場合であっても、経営の課題における重要要素として俎上にあげる等、継続的な課題認識としての土俵作りに向けて、是非取り組みを進めていただきたいと思います。またその際には、働き甲斐の向上に向けた取り組みは、どこが主体となるべきなのか、どのように話をつないでいけばいいのかについても、是非浮き彫りにしていっていただきたいと思います。

4. 最後に、足もとの政治状況との関わりについて一言触れておきたいと思います。

これについては様々な形で私自身の考え方を発信して参りましたので、重なるところもありますが、できるだけ簡潔に述べておきたいと思います。

まず我々の代表である高木義明さんは、絶対に我々の手で守らなければなりません。労働組合の役員としての苦労もされた、文字通りの我々の仲間です。国会議員、あるいはにわかに生まれたよく知らない立候補者を含めて、およそ千人もの方々がいますが、本当に働く者の思いが心の底からわかっている人、モノづくりの真髄を理解している人は非常に少ないのです。絶対に守らなければなりません。そしてとどろきさんの取り組みにもしっかりとつなげていかねばなりません。

さらに、我々はあくまでも政策本位で進まなくてはなりません。連日マスコミがあおりたてる政局騒ぎにはもうウンザリです。こういう逆風のなかにあってもしっかりと自分の主張を持って残っている政治家こそが本物なのです。どうなろうとも政策本位で民主党の軸を守っていく政治家、政策でしっかりと我々とつながっている政治家を心の底から応援していきましょう。

そして今回はまた、日本国のリーダーを国民全体が再確認する取り組みです。民主党、三度目の正直、野田さんは実に誠実に、ひたむきに、堅実に、やるべきことをやってきているではないですか。過去の無責任な政治が積み残していった課題を一歩一歩解決すべく、逃げずに、体をはって頑張っているではありませんか。

これらの点を含め、私の考えについて連日組織内に発信をさせていただいています。これは決して選挙のためではありません。日本のため、働く者のため、健全な民主主義のための主張を精一杯展開していく所存です。どうかご活用をいただきたいと思います。

「本当に大事なことは何か」・・・是非、我々一人ひとりが、職場の仲間や家族・友人に訴えていこうではありませんか。

ご安全に！

－ 以 上 －